

東京腎臓病協会

2013年5月15日発行 SSKA増刊通巻7921号〈毎月6回1の日6の日発行〉1971年8月7日第三種郵便物認可

No.197 SSKA

2013 5.25

おもな記事

- 特集 結成40周年記念「会員実態調査の概要」…………… 2
活動のまど……………12
第24回腎臓病を考える都民のつどい……………20



ホウノキ



特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会
(NPO 東腎協)

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-40-11 富士大塚ビル2F TEL03-3944-4048 FAX03-5940-9556
<http://www.toujin.jp/> E-mail info@toujin.jp

NPO法人東京腎臓病協議会 第8回総会及び第3回大会のご案内

NPO東腎協定款第24条を遵守し、左記のとおり正会員のみで第8回総会を戸山サンライズ・大研修室において開催します。第3回大会は、すべての方が参加できます。但し、非会員の方は参加費として当日千円(昼食代)を受付にお支払い頂きます様、お願い致します(会員及び家族無料)。

記

日時 2013年6月23日(日) 午前9時30分開場 ※正会員のみ
次第 NPO法人東腎協第8回総会(午前10時00分から午前11時50分) ※参加者はこの議案集を必ずご持参下さい。

第3回大会 午前11時50分開場(午後1時〜午後4時)

講演 (一) 「透析患者さんと心臓・血管疾患」

日本大学附属駿河台病院 循環器内科 鈴木 康之 先生

講演 (二) 「透析患者の運動について」

江戸川病院メディカルクリニック篠崎駅西口
フットケアーセンター長 新城 孝道 先生

会場 戸山サンライズ(全国障害者総合福祉センター) 大研修室

TEL 03(3204)3611(代)

交通

●東京メトロ東西線・早稲田駅 3b出口出てみずほ銀行の先の馬場下町交差点を左に曲がり、早稲田大学文学部の敷地に沿って進み220Mほど進むとT字路になります。左折して坂道を登り220Mほど進み、最初の信号を左折し200Mほどで到着。(徒歩10分)

●大江戸線若松河田駅改札出て右に進み、河田口の前が交差点ですので、そのまま220Mほど直進し、その先を右斜め方向に進み坂道を(下り)220Mほどで到着。
※坂道の右側には歩道がないので国立国際医療センター交差点側を歩く。(徒歩10分)

駐車場

利用できませんので、公共機関でおいでください。

☆戸山サンライズまでのご案内☆



リレーエッセイ

これからの災害対策

NPO東腎協理事会 オブザーバー 飯箸 孝太郎



(清湘会記念病院腎友会)

最近では、アラサー、アラフォーと中年世代がもてはやされてお

りますが、世代的には中年でも無く、高齢者でもないアラ還(還暦前世代)まっしぐらを生活している

清湘会記念病院の飯箸孝太郎です。昨年6月より東腎協のオブザーバーを務め

させて頂いております。私は36歳の時、心不全と高血圧により心筋拡張症を患い、その後40代になって糖尿病を併発しまして、50歳より透析導入となり現在に至っております。

透析導入時より腎友会には加入しております。

したが、以前より「NPO法人もやい」等で貧困者対応のボランティアをしていましたが、3・11の東日本大震災発生により、法律家達が立ち上げたトスネットに加入して震災被害者の救援を始めました。

福島より多くの透析患者が避難された時に全ての避難所を訪問し、現在でも帰還困難区域になっている、富岡町の患者、医師とは特に懇意となり、患者さんとはよりご家族の方々とも、実際に震災時の事、福島での避難所生活の事等、生の声を聞いてきました。

震災以前は、患者会の活動には熱心に取り組んではいませんでしたが、震災当時の緊急事項の心配などで東腎協の小関事務局長にはお世話になり、その縁でオブザーバーを引き受ける事になりました。

現在、多くの患者さん達から、緊急災害時に東腎協がどの様な対応が出来るのか?と言う声を聞き

ます。私自身も6月より、活動の軸足を患者会に移し活動して参ります。

これからの災害対策は、実際に旧援助を運営する社会福祉協議会や、行政、医師会との連携を考えております。普段の生活では音楽、読書、落語などを嗜み透析生活を続けております。

全腎協・東腎協の
会員実態調査報告書を
ご活用ください

東腎協・会員実態調査報告書



全腎協・実態調査報告書



目次

東腎協第8回総会

第3回大会のご案内 表2

リレーエッセイ/目次 1頁

特集・結成40周年記念

会員実態調査の概要 2頁

活動のまど 12頁

なかまのたより 14頁

名刺広告 15頁

今後の予定/表紙の言葉 18頁

事務局から/編集後記 19頁



東腎協結成40周年記念

会員実態調査の概要

戸倉振一

東腎協40周年記念
事業実行委員長

東腎協は結成2年目の1974年から10年ごとに、会員の実態を把握し、医療や福祉等に対するニーズを明らかにするために全会員を対象とした実態調査をおこなってきました。今回は、5回目となり結成40周年記念事業の一環として行いました。調査は2012年2月現在の状況について、2012年の3月から5月にかけて行ないました。

東腎協に加入している会員数は、2012年3月末現在で4645人となっていますが、調査表はその全会員へ配布し、3090票の調査票を回収し（回収率67%）、回収した調査票は全て有効回答として集計しました。

この調査の実施にあたり、ご協力いただきました会員の皆様、ならびに各病院腎友会の役員さんに対しまして厚く御礼申し上げます。

対象とした会員の特徴

性別・年齢・居住地

回答総数3090人の性別分布は男性が52・1%、女性が47・9%、男女比は30周年の実態調査（以下「前回」と略す）とほぼ同じでした。

年齢については（図―1）、最も高い割合を占めていたのは70歳代で33・3%、次いで60歳代が33・2%でした。60歳以上の割合に

ついては、前は60・2%でしたが、今回は78・5%とその比率が18・3%増加していました。60歳未満では、前は34・5%で、今回は21・2%に減少しました。

現住地は区部が58・7%、多摩部が37・3%で都内全域にわたっていました。神奈川県、埼玉県、千葉県に住居のある人は3・7%でした。

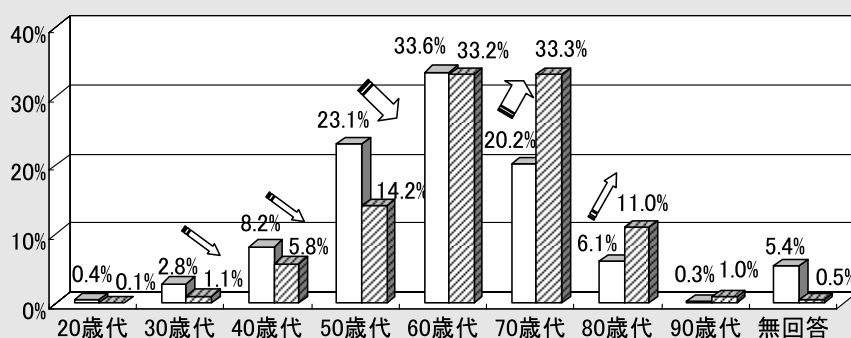
治療形態

血液透析療法を受けている人、または受けたことがある人は97・9%とほとんどを占めていました。この内、腹膜透析療法を受けている人、または受けたことがある人は3・8%で、腎臓移植を受けている人、または受けたことがある人は1・3%でした。なお、これまで受けた透析療法が腹膜透析療法だけである人は0・3%でした。

自覚症状

現在感じている自覚症状の内容のベスト3は「疲れ、だるさ」（39・8%）が最も多く、続いて「かゆみ、むずむず感」（39・6%）「便秘」（31・5%）でした。なお、男性では「かゆみ、むずむず感」が46・4%で最も多く、女性では「疲れ、だるさ」が43・6%と最も多くを占めました。男女別の傾向として、ほとんどの症状は男性より女性の比率が大きい傾向にある

□ 前回(4824人) ▨ 今回(3090人)



図―1 年代の分布―前回調査との比較

りました。また、「かゆみ、むずむず感」については女性より男性の比率が特に大きくなっていました。

治療歴

平均血液透析歴は10・8年で最長血液透析歴は40・8年でした。透析歴5年未満は28・0%、5年以上10年未満が26・6%で、10

年未満が合わせて54・6%を占めています。(図-2)

「成人病診断で」では4・3%でした。なお、前回は「健康診断で」が18・4%でした。年齢別では高

齢者になるほど「自覚症状があり病院で」「別の病気の治療中に」の比率が増加している。

療養の実態

貧血の状態

腎臓病が発見されたきっかけ(図-3)は、「自覚症状があり病院で」は47・2%(前回は37・3%)、「別の病気の治療中に」は29・5%(前回は35・1%)「学校や職場の健診で」は12・6%、

「30%以上35%未満」(42・4%)で、男女とも前回の結果(43・3%)

「25%以上30%未満」は前回(13・4%)に比べ今回(5・7%)は減っており、「35%以上40%未満」が前

回(8・4%)に比べ今回(15・3%)は増えていた。(図-4)このことから、2006年に行われた診療報酬改定で人工腎臓にエリスロポエチンが認められたことによる影響が心配されたが、その後の貧血治療は適切に行なわれているといえる。

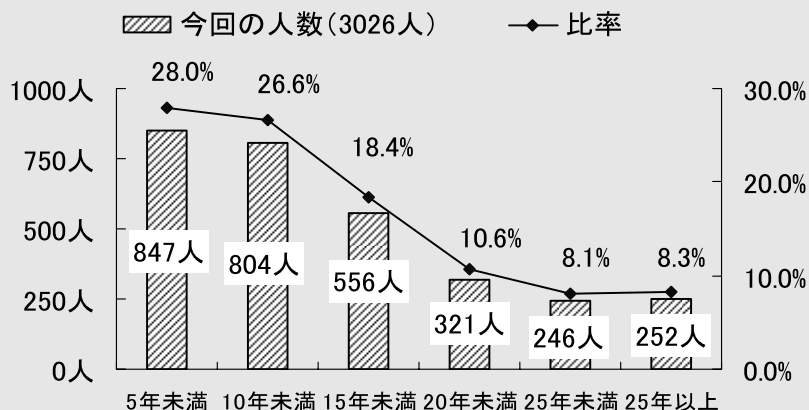


図-2 血液透析導入から現在までの経過年数

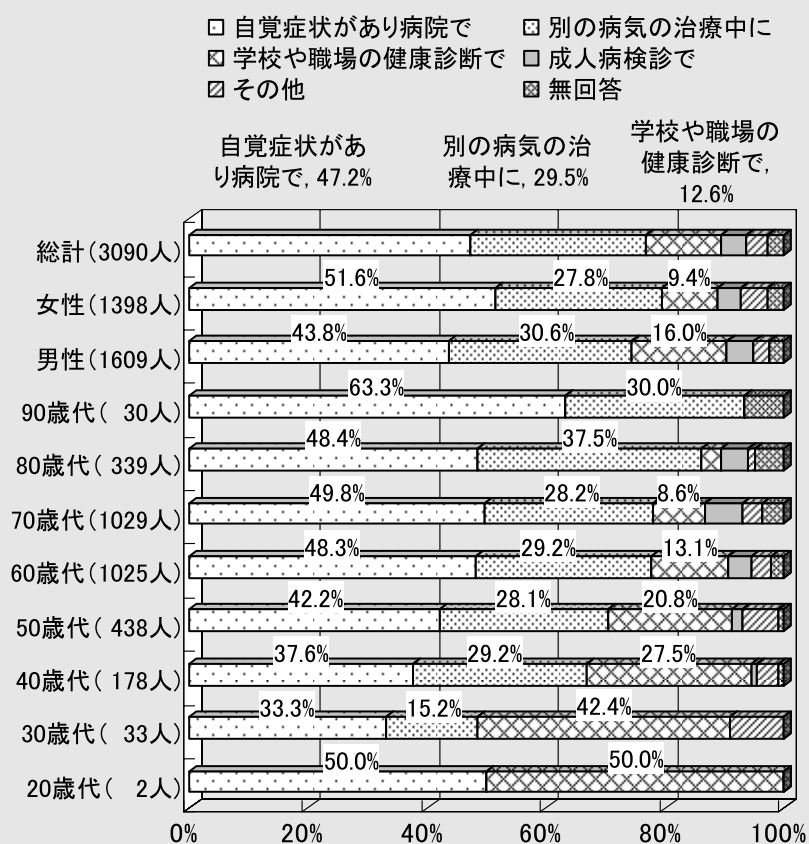


図-3 腎臓病発見のきっかけ (3090人)

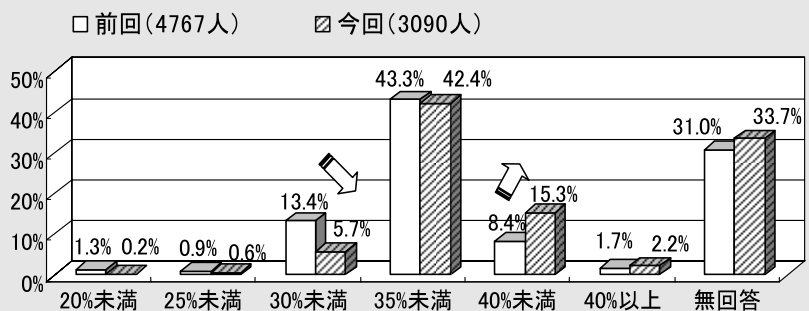


図-4 ヘマトクリット値—前回調査との比較

自己管理

食事管理で気をつけていることは、カリウム制限が65・7%、リン制限が64・3%、水分制限が58・3%、塩分制限が54・8%、カロリー制限については12・6%でした。年齢別では、リンは60歳以上で気をつけている人の割合は減る傾向にあり、塩分については50歳以上で気をつけている人の割合

が増加傾向にありました。

普段自己管理が出来ている人は53・9%で、出来ていない人が22・5%でした。透析後から次の透析まで2日あいたときの体重の増加率（ドライウェイトの5%以内）を守れているが47・3%、守れていないが36・1%でした。

透析治療の時間帯

透析治療の時間帯は血液透析歴

に記入のあった3026人に対して「午前」が最も多く59・1%でした。男女別でみると、「午前」は女性が70・4%で男性が49・5%、「夜間」は女性が3・8%で男性が15・0%でした。年齢別では「午前」は高齢になる程と比率が高くなり、「夜間」は若くなるほど比率が高くなっていった。（図5）

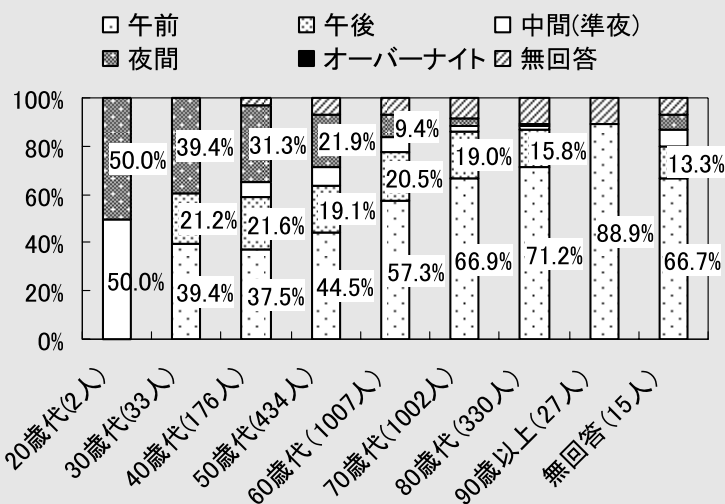


図-5 透析時間帯—年齢別 (3026人)

■ 苦痛である □ そんなに苦にならない □ 全く苦にならない □ 無回答

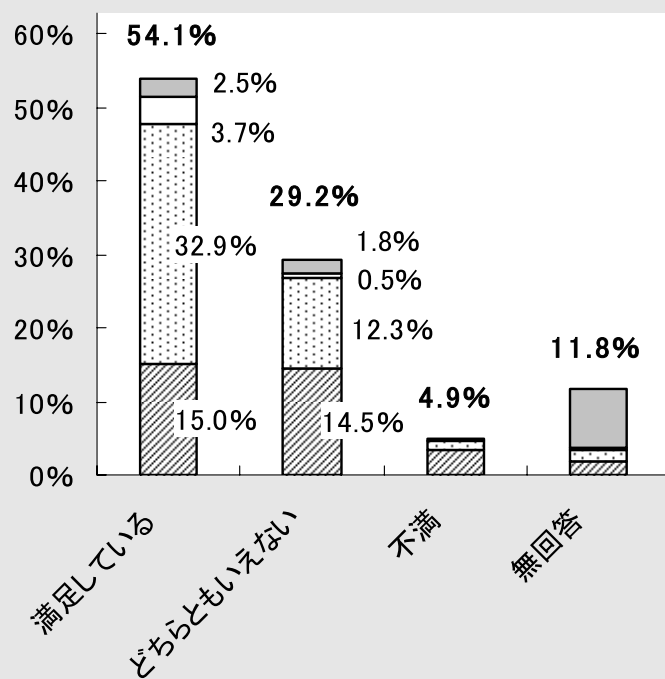


図-6 透析の満足度と透析を苦痛と感ずるか (3090人)

透析時間

透析時間は「3時間以上4時間未満」が最も多く49・5%、次いで「4時間以上5時間未満」が37・2%でした。（社）全国腎臓病協議会の「2011年度血液透析患者実態調査報告書」では「4時間未満」が6・9%であることから、本調査では調査票他の記述から4時間透析の人が「3時間以上4時間未満」を選択したことが推測されるが、それにしても「4時間未満」の透析が極めて多い結果となっている。なお、「5時間以上」は3・1%、「3時間未満」は2・9%でした。年齢別では、「4時間以上5時間未満」は30歳代では60・6%でしたが、90歳代では22・2%と高齢になるほど少なくなっていました。透析歴別では、「4時間以上5時間未満」は透析歴1年未満で21・0%、透析歴30年以上で45・6%でした。

オンラインHDF

近年、生命予後が良いとされ、診療報酬において請求が認められたオンラインHDFについては、「使っている」が16・5%、「使っていない」が22・8%でした。なお、「わからない」「無回答」は

60・6％におよぶことから、まだあまり普及していない治療方法であるといえる。

透析の満足度・苦痛

現在の透析に「満足している」は54・1％、「どちらとも言えない」は29・2％でした。なお、現在の透析に不満は4・9％、「無回答」は11・8％でした。(図―6)

現在の透析が「苦痛である」は34・8％、「そんなに苦にならない」は48・1％、「全く苦にならない」は4・6％、「無回答」は12・6％でした。

現在の透析に対する「不満」「苦痛」は「透析時間」に関することが最も多く、次いで「症状」「治療」に関するものでした。その内容は「透析時間」に関するものは透析時間が長くつらい、逆に長時間透析を希望する、また、生活に制約がでること、拘束されることなどでした。「症状」に関するものは「痛み」「血圧」「疲労」が多かった。「治療」に関するものはシャントトラブルや穿刺の痛み、透析効率の改善やHDF治療を受けられないことなどでした。

「現在の透析に満足」と「現在

の透析を苦痛だと感じている」の関係を見ると、「満足している」を選んだ人で現在の透析に「全く苦にならない」と答えた人は図―6に示すように回答総数3090人対して3・7％であることから現在の透析治療に対して何らかの苦痛を感じながらも、透析治療が受けられることに対しては満足していることが伺える。

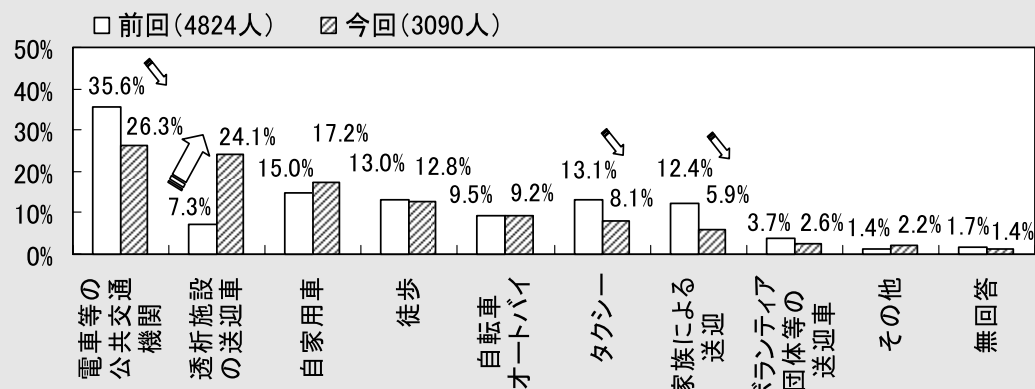
透析治療によって断念したこと

障害によって断念したり、断念せざるを得なかったことは「旅行や遠距離の外出」が50・6％で突出して多かった。次いで「スポーツや文化活動」が19・2％、「就職」が12・7％、「人付き合い」が12・3％、「近距離の外出」が6・8％でした。一方「特にない」は17・2％でした。

年代別では、年代が若いと比率が高くなる傾向のものは、「進学」「就職」「異性との付き合い」「結婚」「出産・育児」「人付き合い」「ファッションなどのおしゃれ」「スポーツや文化活動」でした。逆に、高齢になると比率が高くなるものとして、「近距離の外出」「特にない」「無回答」でした。「旅行や遠距離の外出」については、

年代差はあまりありませんでした。
通院の手段

透析施設までの通院手段で最も多かったのは、「電車、バス、地



図―7 透析施設までの主な通院手段―前回との比較

下鉄」といった公共交通機関の利用で、26・3％を占めていた。次いで「透析施設の送迎車」24・1％、「自家用車」17・2％「徒歩」12・8％となっていた。(図―7)

前回調査と比較すると、「電車、バス、地下鉄」の利用が35・6％から26・3％へ減少し、代わりに「透析施設の送迎車」が7・3％から24・1％と増加していた。その他、「家族による送迎」が12・4％から5・9％、「タクシー」が13・1％から8・1％に減少していた。

年齢別では高齢になるほど「透析施設の送迎車」が突出して比率が高くなり、80歳以上では48・2％、70歳代で32・8％が利用していました。なお、60歳代では16・0％、60歳未満では9・4％でした。

地域別では「自家用車」が23区で12・9％であったのに対し、多摩地区では22・4％と多摩地区が23区より約10％比率が大きくなっていた。

通院に要する時間

72・3％の人が、自宅から30分以内で通える医療機関に通院している。逆に1時間以上かけて通院

している人は、2・8%と少数でした。前回調査では、30分以内圈内の人が64・6%、1時間以上かかる人が6・1%で、通院にかかる時間は短くなり、自宅に近い医療施設を選ぶ傾向になっている。

通院に要する費用

「透析施設の送迎車を利用しない人」（1781人）の通院のための交通費は、全くかからない人が84・1%であった。回答総数3090人に対して、全くかからない人は前回の33・2%から51・5%へと増加していた。

通院のための交通費で、月額5千円以下の人は回答のあった2409人に対して21・1%で、前回の20・8%からほとんど変わらなかった。5千円以上1万円以下の人は、15・6%から13・6%、1万円以上の人は19・1%から13・9%と減少している。全体的には前回の調査時より通院費用は抑えられ、患者負担が軽減している。

通院の自立と付き添い

通院スタイルについては、75・

7%が「1人で通っている」と回答し、前回調査の「たいてい1人で通院している」（72・7%）から高齢化に反して若干増えている。これは「1人で通っている」2340人のうちの20・2%の人が「透析施設の送迎車」を利用して

いることによる影響である。付き添いが必要と答えた人では「配偶者」が8・9%と最も多く、次いで「介護保険のホームヘルパー」で3・1%、「透析施設の職員に付き添いを頼む」が2・5%、「子ども」が2・3%でした。

腎移植・在宅血液透析

腎移植の希望

腎移植を「希望する」は14・9

％、「希望しない」が59・1％、「わからない」が13・6％で、前

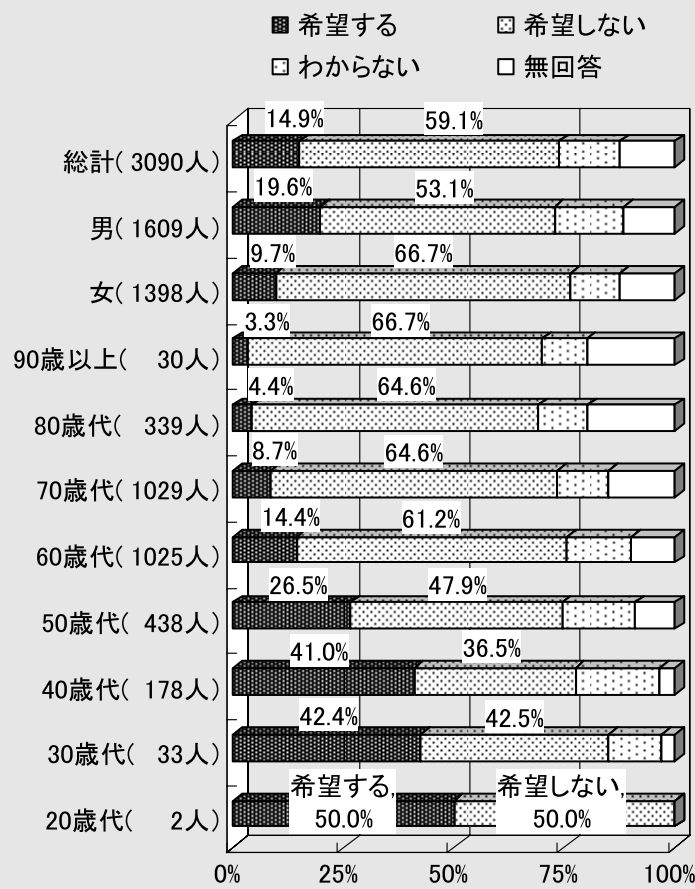


図-8 腎移植の希望—年齢・男女別

回とあまり変わらなかった。性別で見ると男性の19・6%が「希望する」と答えたのに対して、女性では9・7%と男性の約半数で、これも前回と同様であった。また、年齢別にみると年齢が若いほど腎移植を希望している人の割合が高くなっていく傾向は前回と同じで、比率も同様であった。（図-8）

日本臓器移植ネットワークへの腎移植希望登録状況

腎移植を「希望する」と答えた459人のうち、「登録している」は38・1%で前回調査（36・8%）とほぼ同じ割合であった。一方、「登録していない」が58・4%、「無回答」が2・8%であった。30歳代の若い世代に限ってみると、移植を「希望する」と答えた人のうち78・6%が「登録している」と答え登録を済ませていた。腎移植を希望して日本臓器移植ネットワークに登録しない理由として、腎移植を希望して日本臓器移植ネットワークに登録していない人（268人）で一番多かった理由は「登録しても移植まで時間がかかる」（47・8%）、次いで「年齢的・体力的に無理」（25・0%）、「費用が心配」（22・4%）でした。

なお、「年齢的・体力的に無理」は60歳を超えると、その人数が多くなっていた。

在宅血液透析（HHD）の希望

在宅血液透析を「希望する」が4・6%「希望しない」が64・3%「わからない」が17・8%「無回答」が13・3%で、過半数が「希望しない」と答えています。なお、現在全国で在宅血液透析を行って

いる患者は327人で、全国の透析患者の0・1%である。

「希望しない」理由は「安全性」に関するものが圧倒的に多かった。

職業生活

現在の就労状況

「仕事をしている」は690人で22・3%。男女別では男性が32・4%、女性が11・3%でした。

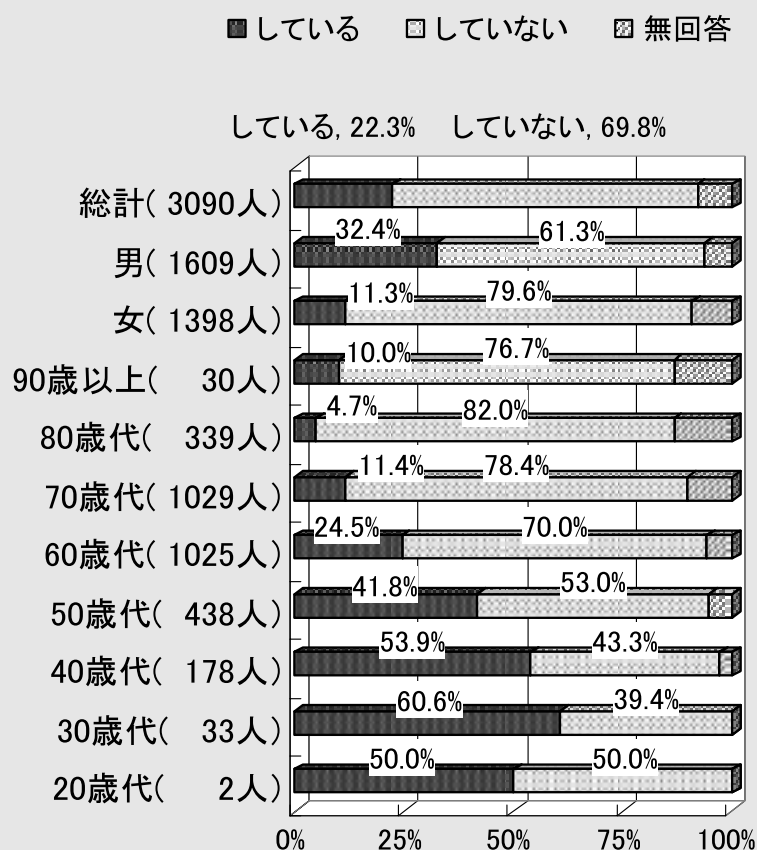


図-9 就労区分・年齢・男女別

次いで、介助者や本人の障害に關すること、住居に關することでした。

年齢別では20歳代が50・0%、30歳代が60・6%、40歳代が53・9%、50歳代が41・8%、60歳代は24・5%、70歳代は11・4%、80歳代は4・7%、90歳代で10・0%でした。(図-9) 透析歴別では30年未満では22%、24%、30年以上で16%でした。

仕事をしていない理由

回答のあった2156人に対して、「高齢のため」が一番多く51・8%、次に「主婦(夫)・家事手伝い」が20・4%、「体調がよくない」が16・0%、「働く必要がない」が10・1%、「透析導入後退社した」が9・0%、「仕事を探しているが見つからない」が4・0%、「働く意欲がわかない」が3・1%、「透析導入後解雇された」が1・8%でした。

職業

男性(522人)は多い順に「正社員」(24・9%)、「その他」(24・7%)、「会社・団体役員」(22

・2%)、「契約・派遣社員」(8・6%)、女性(158人)は「その他」(28・5%)、「パート」(25・3%)、「正社員」(13・9%)、「会社・団体役員」(11・4%)でした。年代別では50歳代以下では「正社員」「その他」、60歳代以上は「その他」「会社・団体役員」の順に多かった。

労働日数と労働時間

有職者690人に対し多い順に「5日・32時間以上」が23・5%、「6日・32時間以上」が13・2%、「5日・24時間以上32時間未満」が7・4%でした。

職場の理解

通院や病気に對する職場の理解は「理解している」(54・2%)、「どちらかと言えば理解している」(19・7%)合わせて有職者の73・9%でした。

就労支援

回答があった296人で最も多かったものが「ハローワーク」で22・0%、次が「知人・家族」で17・9%でした。

経済状態・家庭の状況

公的年金の受給状況

なんらかの公的年金を受けている人は82・3％でした。受けていない人は9・4％で、無回答が8・3％でした。

受給している年金の種類は障害基礎年金（29・7％）が最も多く、次いで老齢基礎年金（26・3％）、老齢厚生年金（21・9％）であった。

障害年金を受給していない理由については、回答のあった516人に対して多い順に「65歳以上で障害になった」（35・7％）「理由はわからない」（13・4％）「初診日に加入していなかった」（12・0％）「年金制度へ加入していない」（12・0％）であった。

心身障害者医療費助成制度

「マル障」を「持っている」は69・7％、「持っていない」は16・3％、「無回答」13・9％でした。

「マル障」を持っていない人（505人）にその理由を尋ねたところ、「65歳以上で障害になった」は35・8％、「65歳に達する前日までマル障の申請を行わなかつ

た」は2・6％でした。なお、「後

期高齢者医療の被保険者で且つ住民税が課税されている」は10・9％、「収入が多いので支給停止になっている」は17・2％でした。

患者本人の年収

年金受給者を含む患者自身の年収は、「100万円未満」が21・8％、「100万円以上200万円未満」が21・3％、「200万円以上300万円未満」が12・5％、「300万円以上400万円未満」が8・2％、「400万円以上500万円未満」が4・2％、「500万円以上600万円未満」が2・2％、「600万円以上」が5・5％、「収入なし」が7・4％、「無回答」が14・1％であった。

主な家計保持

「患者自身」が49・8％、「配偶者」が29・4％で合わせて79・2％でした。男女別では、男性の場合は「患者自身」が71・1％、「配偶者」が10・2％、女性の場合は「患者自身」が25・6％、「配偶者」が52・0％でした。

一人暮らしの人（475人）の年収は「100万円未満」が13・3％、「100万円以上200万円未満」が30・9％、「200万円以上300万円未満」が14・5

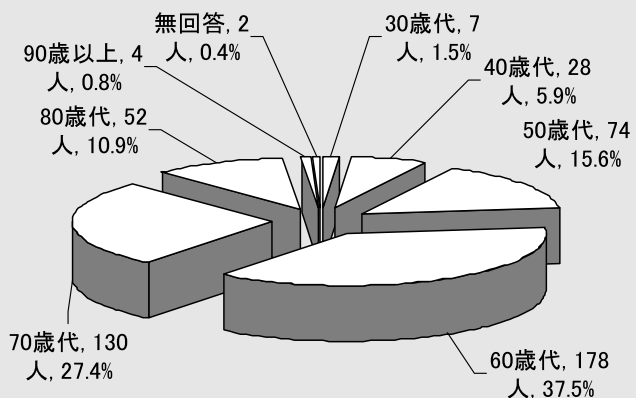


図-11 一人暮らしの人の年齢分布 (475人)

家庭の状況

同居している家族の続柄は「配偶者」（60・4％）が一番多かった。「一人暮らし」は15・4％で前回調査（15・1％）とほぼ同じでした。なお、男性では「配偶者」と同居が63・8％、「一人暮らし」が16・6％、女性では「配偶者」と同居が57・0％、「一人暮らし」が14・0％でした。

一人暮らしの人のうち高齢者は

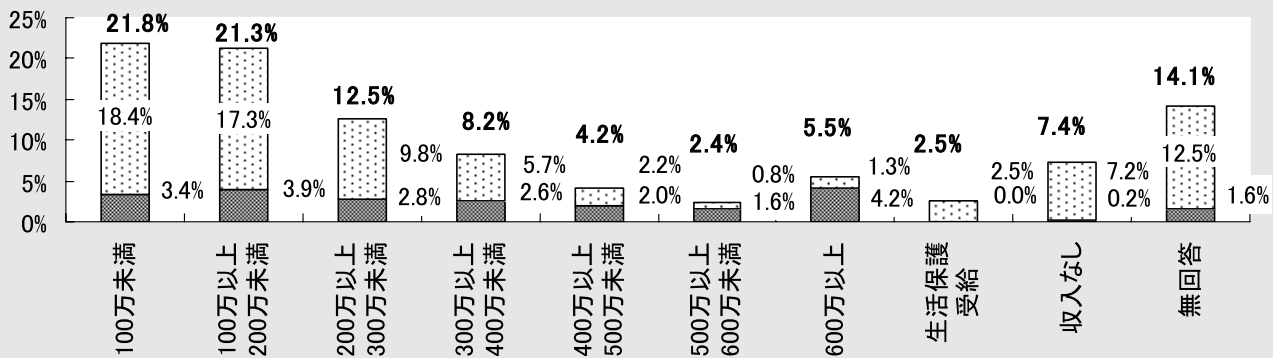


図-10 患者本人の年収—有識者・有識者以外別 (3090人)

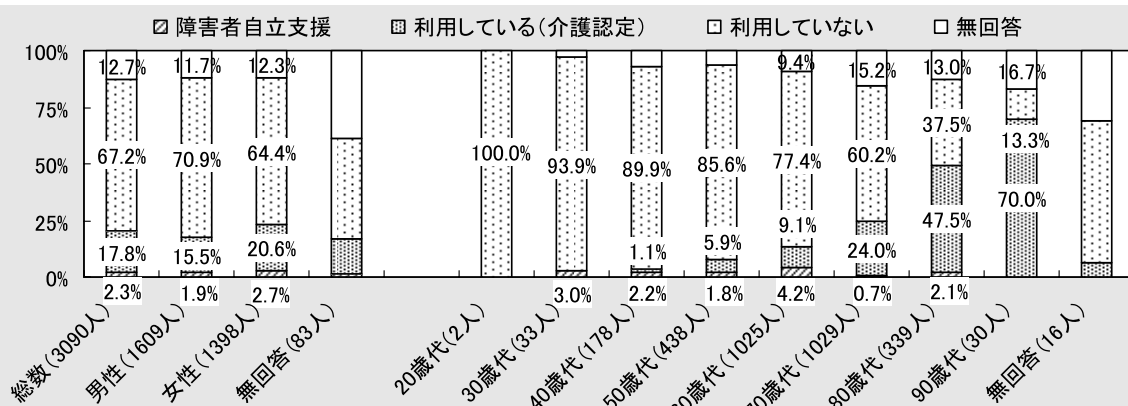


図-12 介護保険および障害者自立支援のサービス利用状況

介護保険について

介護保険および障害者自立支援について

「障害者自立支援」を受けているが2・3％(70人)、介護保険の介護認定を受けている人が17・8％(551人)でした。なお、介護保険および障害者自立支援を利用していない人は67・2％でした。(図-12)

介護保険を利用していない理由は「必要がない」が73・0％、「まだ自立できる」が11・0％、「家族等の支援がある」が2・4％でした。

年代別では、90歳以上は70・0％、80歳代は47・5％、70歳代は24・0％、60歳代は9・1％、50歳代は5・9％、40歳代は1・1％、30歳代は0・7％、20歳代は0・2％でした。障害者自立支援については各年代で0・7％～4・2％の人が利用していました。

介護保険申請の認定結果

申請した551人に対して多い順に「要介護2」(25・4％)、「要介護3」(21・6％)、「要介護1」(14・5％)、「要介護5」(8・5％)、「要介護4」(4・5％)でした。(図-13)

(図-11)

サービスの内容の満足度

「障害者自立支援」「介護保険」を利用している621人に対して「満足している」「まあまあ満足している」が合わせて43・7％、「不満」「やや不満」は合わせて15・6％、「何ともいえない」が24・3％でした。

「不満」の理由は回答があった97人に対して「利用時間が短い」が35・1％、「使い勝手が悪い」が20・6％、「サービス内容が充実していない」が24・7％、「透析患者に対する配慮が不足」が26・8％、「手続きが大変」が13・4％でした。

2010年の介護保険改定による介護保険認定結果

「下がった」が10・5％、「変わらない」が32・9％、「上がった」が5・8％、「わからない」が17・7％でした。

必要な介護保険サービス

回答があった465人に対して「送迎」に関するものが27・3％、「家事」に関するものが18・1％、

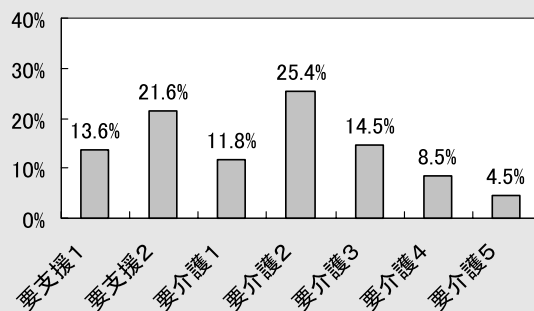


図-13 介護保険申請者の認定区分(551人)

「その他」が18・5％、「分からない・思いつかない」という主旨の回答は26・9％でした。

通院手段および通院費用

介護保険利用者の45・8％が「透析施設の送迎車」を利用し、「タクシー」は12・6％が利用していました。通院費用がからない人で「透析施設の送迎車を利用」は認定区分により67％～93％、「透析施設の送迎車を利用しない」では30％～61％、通院費用がかかる人は5万円以上の人もいた。

災害対策について

事前の備え

透析施設の災害対策が「十分にできている」が23・6%、「不十分」が23・2%、「わからない」が41・9%でした。

災害時の避難場所を「知っている」は57・3%、「避難所で自分が透析していることを行政や避難所で伝えることができる」は44・2%、「たぶん伝えられる」は31・5%で合わせて75・7%でした。「災害時の食事管理」が「できる」が58・0%、「災害時の通院手段、代替透析施設を把握している」は22・8%で、「把握していない」は46・3%でした。

「日常から災害に備えて何かやっている」は22・3%で、その内容は食料、薬、備品などの「備蓄」、保険証、手帳、食料、薬、備品を「携帯」することでした。

東日本大震災発生当時の透析

「普段通り透析ができた」が49・1%、「非透析日だった」が24・3%でした。一方、「透析中止になった」が3・5%（107人）、「透析途中で中止になった」が2・4%（73人）、「透析施設へ行け

なかった」が1・5%（45人）、「他の施設で透析した」が0・8%（25人）であった。これらの比率の傾向は23区、多摩地区で大きな違いはなかった。

東日本大震災発生後の計画停電時の透析への影響

「透析開始時間が変わった」が10・1%（313人）、「透析時間が短くなった」が10・0%（308人）、「透析日が変更になった」が5・1%（157人）でした。

計画停電の影響は多摩地区に大きな影響があり、「通常通り透析できた」は23区（1813人）では58・7%だったのに対して多摩部（1152人）では36・2%でした。

多摩部で大きな影響を受けたことは「透析開始時間が変わった」が20・8%、「透析時間が短くなった」が13・2%、「透析日が変わった」が9・5%でした。一方、23区は「透析開始時間が変わった」が3・5%、「透析時間が短くなった」が7・9%、「透析日が変わった」が2・2%でした。

この10年の変化と今後の活動

— 会員実態調査の結果から

患者の高齢化と通院送迎

透析医療を取り巻くこの10年の大きな変化として、透析患者の高齢化に伴うものがまず挙げられます。

図1に示したように、会員の年代で最も高い割合を占めていたのは70歳代で、10年前は会員に占める割合が20・2%だったものが33・3%に増加し、80歳以上は6・4%から12・0%に増加しました。

その結果として、10年前に大きな問題として取り上げられていた通院送迎については、透析施設が行なう様になり、図7に示したように10年前に、通院手段として透析施設の送迎が利用できた人が7・3%だったものが、今回は24・1%に増えていきます。80歳以上に限ってみると48・2%の方が利用している状況にあります。

介護保険の利用状況をみると図11に示したように80歳代では47

・5%、90歳代では70・0%の方が利用をしておりますが、これらの方の45・9%の方が、透析施設の送迎車が利用することにより、一人での通院が可能になり、家族の透析施設への通院介助の負担を軽減しています。

一方、透析施設の送迎車が利用できない場合の経済的負担が大きいのという結果も出ております。

透析施設の送迎が今後も続けて行けるのかということも問題視されており、通院送迎については今後も注視していかなければならないテーマであるといえます。

CKD対策の強化

腎臓病発見のきっかけは図3に示したように「自覚症状があり病院で」が47・2で前回の35・1%から増加しており、高齢になるほどその比率が増えていきますので特定健診の受診率を向上させる取り組みが必要です。また、高齢化の影響もあり、生活習慣病による

患者会への期待

活動について

「非常に期待している」(24・4%)と「期待している」(51・9%)をあわせて76・3%あり、東腎協の活動への期待の高さが伺えました。

具体的に期待している内容として1054件の回答(自由回答)がありました。多くを占めたのは「各種制度の維持向上」に関することが27・2%、「組織力に期待」に関するものが18・0%、「情報が得られること」が16・0%、「要請活動に対して」が13・8%、「活動に対して」が9・7%、「医療にかかわること」が9・2%、「その他」が6・1%でした。

一方、「あまり期待していない」は9・8%で、「全く期待していない」が0・9%でした。

期待しない理由については150件の回答(自由回答)がありました。多くを占めたのは「活動内容」についてで、50・7%でした。そのなかでも特に「活動内容がわからない」が多くを占めていました。

東腎協行事について

東腎協のイベントに「参加したことがある」は27・5%でした。今後開催してほしいもののベスト3は「学習会」(25・6%)、「交流会」(17・8%)、「レクリエーション」(9・8%)でした。なお、東腎協のイベントに参加したことのある849人では「学習会」が48・9%、「交流会」が33・6%、「レクリエーション」が16・6%でした。

機関誌「東腎協」について

機関誌「東腎協」は「参考になる」が62・2%、「どちらともいえない」が18・8%、「無回答」が13・1%でした。参考となる内容のベスト3は「医療に関する情報」(47・0%)、「経験談」(27・6%)、「特集」22・9%でした。

ホームページについて

東腎協のホームページは「参考になる」が17・7%、「見たこともない」は45・0%、「無回答」は23・4%で、約7割の人はホームページにはアクセスしていない、またはできない状況でした。

と思われる「別の病気の治療中に」も高齢になるほどその比率が高くなっていることから、早期発見・早期治療により透析を導入しなくて済むように、かかりつけ医と腎臓の専門医との関係の強化が必要となると思います。

現役世代の対策

60歳未満の現役世代については、東腎協の会員としては減少傾向にありますが、全国の透析患者数としては、ほぼ横ばい状況にありますので、透析導入をすることになっても、社会復帰し、社会の中で活躍できるように支援していくことは重要なテーマであると考えます。現役世代の就労実態を見ると、週5日、週32時間以上働く人が有職者の23・5%いる一方で、仕事をしていない理由として「体調がよくない」と回答している人が、仕事をしていない人の16・0%いることから、その原因と対策を考えていく必要があります。また、「透析導入後退社した」が9・0%、「透析導入後解雇された」が1・8%あり、透析していると、その仕事を続けるのは困難という場合もあると思われるので、その人に向いた仕事に就けるような就

労支援も重要なことと考えます。また、腎臓移植を希望する人は、10年前と変わらず、希望する年齢も上がっていることから、臓器移植の推進もこれまで同様行なっていく必要があります。

透析医療について

今受けている透析に「満足している」は図―6に示したように、54・1%ありますが、一方で「満足している」と答えている人の15・0%の人が今の透析に苦痛を感じている。また、全体の34・8%の人が苦痛を感じているという実態があります。自覚症状としては「疲れたるさ」「かゆみ・むずむず感」を感じる人が多く、これらの症状を緩和されることを望みます。また、その人のライフスタイルにあった透析方法が選択できるような環境作りも重要と考えます。最後に患者会への期待するものとしては「各種制度の維持向上」がありますので、議会、行政への交渉力を高めていく必要があります。そのための人材育成が急務です。また、透析患者のQOL向上のために、各関係団体との関係強化が必要になると思います。

東腎協 活動のまど

多摩ブロック学習交流会

日時…2月10日（日）

場所…立川市女子総合センター
アム1Fホール

参加者…30名（会員外3名）



講演1「腎移植、はじめの一步!!」

東京医科大学八王子センター
1外科第五講座消化器外科
移植外科講師

岩本 等先生

講演2「腎移植へもう一步」

東京医科大学八王子医療セ
ンターレシピエント移植コ
ーディネーター

池田 千絵先生

8時50分に理事は集合し、各自
役割分担に沿って準備を進め、9
時15分に会場することが出来まし
た。司会は斉藤理事。

岩本先生のお話は、透析の歴史、



腎移植の歴史から始まりました。
そして、合併症や死亡リスクを例
に挙げ、腎移植がなぜ必要なのか
を説明されました。

池田先生は、腎移植に関する基
本的な事柄、腎移植にどれくらい
お金が掛かるのか、ドナーの費用、
または、移植後の障害年金等多岐
に渡って説明されました。

参加人数は会員30名と少なかっ
たが、意義のある学習会でした。

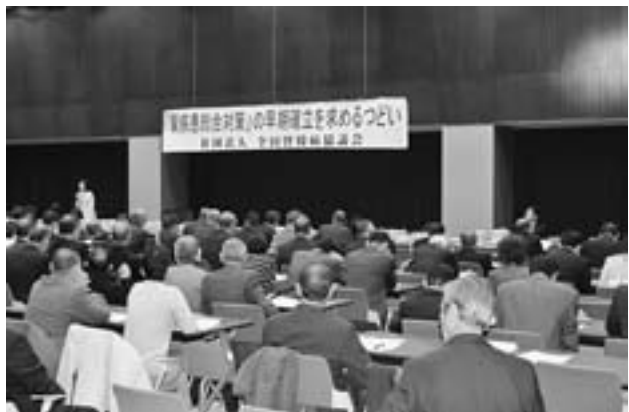
第42次国会請願に全国か ら217名が集結

第42次国会請願は3月21日に参
議院講堂に全国の県の代表が集結
して開催されました。紹介議員3
00名、来場議員23名・秘書63名、
会員参加数217名（東京4名）
でした。

東京の署名数は全腎協19、4
45筆（全国908、722筆）、
JPA18、615（前年24、7
09）筆でした。募金はJPAと
併せて1,506、264円（全国
3,962、256円）でした。



全国から集まった署名



集会には全国から200名を超える参加者が集まった



田村智子参議院議員(右)に署名用紙を渡す木下会長



川田龍平参議院議員秘書(左)に署名用紙を渡す木下会長

北部ブロック「勉強会」

日時… 4月14日(日)

会場… 豊島区民センター4階第2会議室

参加者… 31名

テーマ… 「シャントについての基礎知識」 「私たちの大切な「シャント」のすべてを学ぼう」
講師… 医療法人裕真会 あかまつ透析クリニック院長 赤松眞先生
榊原ブロック長の急遽入院により開会の挨拶を省略して、1時半より古木理事の司会で始まりしました。

シャント(バスキュウラアクセス)、内シャント(AVF)、血流不良、狭窄、閉塞(バルーン拡大)、ボタンホールの穿孔は痛くないとか、HDFは若い人のやつてもらいたい、などの質疑応答があり、3時30分に終了しました。

東京都腎臓移植組織適合性検査費(HLA検査費)助成事業の御案内

1 対象者

都内に住所に有し、人工透析療法を受けている慢性腎不全の方で、献腎移植を希望するため、社団法人

人日本臓器移植ネットワークへの登録する方(社団法人日本臓器移植ネットワークへの登録に必要な腎臓移植組織適合性検査費が一部助成されます。)

2 助成額

腎臓移植組織適合性検査費用の一部(平成25年度については10、

000円とします。)

3 書類提出先及び問い合わせ先

東京都福祉保健局 保健政策部
疾病対策課 献血移植対策係
所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4506
FAX 03-5388-1437

東京都と協定を締結しているHLA検査センター

検査センター名	所在地	電話番号
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	東京都港区虎ノ門2-2-2	03-3588-1111
東京医科大学 八王子医療センター	東京都八王子市館町1163	042-665-5611
東京女子医科大学病院	東京都新宿区河田町8-1	03-3353-8111
東邦大学医療センター 大森病院	東京都大田区大森西6-11-1	03-3762-4151

その他のHLA検査センター(都内及び近隣3県)

検査センター名	所在地	電話番号
昭和大学病院	東京都品川区旗の台1-5-8	03-3784-8000
埼玉医科大学国際医療センター	埼玉県日高市山根1397-1	042-984-4111
埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県川越市鴨田辻道町1981	049-228-3400
独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	千葉県千葉市中央区仁戸名町673	043-261-5171
東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	0463-93-1121
北里大学病院	神奈川県相模原市南区北里1-15-1	042-778-8111
公立大学法人横浜市立大学附属病院	神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2800

なかまの たより

桃と温泉のバス旅行

立川北口駅前腎友会

中村 文子

毎年恒例の患者会の旅行、今年
は八月十九日（日曜日）クリニッ
ク前を出発。一路山梨を目指し、

八王子インターより中央
高速に乗り、心配した渋
滞もなく勝沼桃園に到着
たわなに実った桃が一行
を歓迎してくれているよ
うでした。早速桃狩りに
興じ、甘い香り、ジュー
シーな味、透析患者とし
てはカリウムを心配しつ
つ口へ運び、大満足の笑
顔でした。

家族へのお土産に桃を
収穫し、石和のホテルに
向かい温泉で汗を流し、
楽しみの宴会、カラオケ、
談笑、日頃話をする機会
があまりないので、患者
同士の悩み等話し合い、
有意義な時間を過ごし、
また来年もと約束。山梨
を後に予定通り立川に戻
りました。

第七回川柳コンテスト

優人クリニック患者会

川柳係 井上 健史

練馬区の優人クリニックで患者
会による七回目の川柳コンテスト
が開催され六十五句の応募があり
ました。今回のテーマは「塩」で
した。

審査員の投票の結果、優秀作品
には次の句が選ばれました。川柳
では一位から三位を天地人と呼び、
五客、秀と続きます。

天 減塩の料理のこつは

だしにあり 森 洋子

地 山歩き景色に勝る

塩むすび 丸山みね子

人 塩喧嘩浅野も吉良も

家潰し 寿老人

五客 友逝きて惜別の塩

涙する 丸林将

五客 大相撲時が来るまで

波の花 白岩正巳

五客 塩断ちに秋刀魚は目黒

殿ぐるる 木卯

五客 さしすせそ減らしなさい

と医者が言う 文蚊人

五客 母思い昔懐かし

塩むすび 金子博光

塩とれば体は水が

欲しくなる 清水猛

右の句は、上位入賞は逃しまし
たが、透析患者に非常に大切なこ
とを教えてくれていると思います。
私は透析を始めてしばらくは塩
と水分の関係をよく知りません
でした。

とにかく水を控えることに一生
懸命で、飲んだ水をノートにつけ
一リットルを越えないようにして
おりましたが、なかなか守れませ
んでした。

しかし、塩分を控えることがで
きれば水は欲しくならぬことが
わかって以来、塩を控えたところ、
水分を抑える必要がなくなりました。
今はお陰さまで楽な透析がで
きております。

今日の増えは1・6キロでした。
ドライウエイトは65・6キロです。
川柳を楽しんでいるうちに楽な透
析生活を送れるようになればいい
ですね。

賛助会員名刺広告

特定非営利活動法人 腎臓病連絡協議会		医療法人社団 菅沼会		医療法人社団 腎と水	
すずらんの会		腎内科クリニック世田谷		扶桑薬品工業株式会社	
会長 高山 衛士		理事長・院長 菅沼 信也		東京第一支店	
〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18 横山マンション203 ☎03-3924-9022		〒157-0062 世田谷区南島山 4-21-14 ☎03-5969-4976		〒103-0023 中央区日本橋本町 2-4-5 扶桑日本橋ビル ☎03-5203-7101	
社会医療法人社団 健生会		株式会社		医療法人社団 清湘会	
すながわ相互診療所		スタッフサービス・ビジネスサポート		清湘会 記念病院	
院長 小泉 博史		代表取締役社長 亀井 宏之		院長 野中 達也	
〒190-0002 立川市幸町5-9-2 ☎042-538-1502		〒252-0233 相模原市中央区鹿沼 台1-7-7 トラスト・テック相模原ビル ☎042-776-6935		〒136-0071 江東区亀戸 2-17-24 ☎03-3636-2301	
社会医療法人社団 健生会		医療法人社団		医療法人社団 東仁会	
羽村相互診療所		三友会あけぼの病院		吉祥寺あさひ病院	
所長 小林 重雄		理事長 南郷 俊明		院長 多川 斉	
〒205-0003 羽村市緑が丘1-15-10 ☎042-554-5420		〒194-0021 町田市中町 1-11-11 ☎042-728-1111		〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-30-12 ☎0422-22-1120	
医療法人社団 幸優会		医療法人社団		練馬・桜台クリニック	
みたかの森クリニック		西新井病院附属成和腎クリニック		練馬・桜台クリニック	
院長 菊池 太陽		理事長 金 光宇		院長 永野 正史	
〒180-0006 武蔵野市中町 1-4-4 スクウェア三鷹2F ☎0422-60-3433		〒123-0845 足立区西新井本町 1-25-35 ☎03-5838-1181		〒176-0012 練馬区豊玉北 4-11-9 ☎03-5999-0723	
医療法人財団		医療法人社団 春口クリニック		イーホープペプセル	
織 本 病院		飯田橋春口クリニック		代表 三好 哲夫	
理事長・院長 高木 由利		院長 春口 洋昭		代表 三好 哲夫	
〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-2-6 ☎042-491-2121		〒102-0072 千代田区飯田橋 3丁目9-3 SKプラザ2F ☎03-5215-1515		〒651-0084 兵庫県神戸市中央区 磯辺通2-25 ダイワビザビル803 ☎078-855-5911	
				味の素製薬株式会社	
				代表取締役社長 豊田 友康	
				〒104-0042 中央区入船 2-1-1 ☎03-6280-9500	
				ベータ食品株式会社	
				代表取締役社長 原 年秀	
				〒531-0076 大阪市北区大淀中 1-16-10 高石ビル5階 ☎06-6345-6222	
				テンプスタッフロンティア株式会社	
				代表取締役社長 中村 淳	
				〒104-0061 中央区銀座 4-12-19 日章興産ビル6階 ☎03-3547-3123	

賛助会員名刺広告

医療法人社団 仁星会 理事長 稲田 俊雄	医療法人社団 仁星会 大泉学園クリニック 院長 草場 岳 〒178-0063 練馬区東大泉 5-40-24 サンタリオンビル3F	医療法人社団やよい会 あやせ駅前腎クリニック 院長 榎本 美穂 〒120-0005 足立区綾瀬 3-16-4 とうしんビル5F 6階 03-5697-8281	医療法人社団 心施会 理事長 杉崎 弘章 〒183-0055 府中市府中町 1-8-1 第7三ツ木ビル6F 7階 042-366-8909
医療法人社団 仁星会 練馬高野台クリニック 院長 鈴木 重伸 〒177-0033 練馬区高野台 1-8-15 03-5372-6151	医療法人社団 松和会 望星西新宿診療所 院長 石黒 千鶴 〒160-0023 新宿区西新宿 3-12-12 03-5304-5655	医療法人社団やよい会 立石腎クリニック 院長 山本 亮 〒124-0012 葛飾区立石 8-1-2 賛生会ビル2F 3F 03-5672-2151	株式会社 メデイコン東京営業所 代表取締役 坪田 元明 〒110-0005 台東区上野 5-6-10 台和上野ビル8F 03-5812-3511
株式会社 東京在宅サービス 取締役社長 斉藤 英二 〒160-0022 新宿区新宿1-5-4 YKBマイクガーデン201、301 03-3354-0341	医療法人社団 松和会 望星田無クリニック 院長 福井 光峰 〒188-0011 西東京市田無町 2-21-12 0424-64-5711	医療法人社団やよい会 秋葉原腎クリニック 院長 小倉 明子 〒101-0021 千代田区外神田 1-16-9 朝風二号館ビル2階 03-3251-5215	医療法人社団 北桜会 笹塚・代田橋透析クリニック 院長 布川 朝雄 〒151-0073 渋谷区笹塚 1-64-8 笹塚サウスビル2階 03-5304-1131
ジープラン株式会社 代表取締役 長谷川 貴一 〒101-0044 千代田区鍛冶町 2-3-5 長谷川ビル 03-3257-0067	医療法人社団 松和会 望星赤羽クリニック 院長 喜田 浩 〒115-0045 北区赤羽2-11-3 砂田ビル2F 03-3902-0255	医療法人社団やよい会 北千住東口腎クリニック 院長 中田 悠皓 〒120-0026 足立区千住旭町 11-2 学園通りビル1階 03-5284-5101	医療法人社団 北桜会 新線池袋クリニック 院長 目良純一郎 〒171-0021 豊島区西池袋 1-10-10 東武アネックスビル4階 03-5911-1250
株式会社 コーワテクノサーチ 代表取締役 川岸 史和 〒541-0053 大阪府大阪市中央区 本町1丁目5番7号 06-6267-0212	医療法人社団 松和会 望星新宿南口駅前クリニック 院長 高橋 俊雅 〒151-0053 渋谷区代々木2丁目 10番12号 JA東京南新宿ビル8・9階 03-3376-0191	医療法人社団やよい会 あだち入谷舎人クリニック 院長 飯野 靖彦 〒121-0836 足立区入谷 1-14-17 03-5839-6201	医療法人社団 北桜会 東武練馬クリニック 院長 土田 雅章 〒175-0083 板橋区徳丸 3-11-2 03-5922-3530

賛助会員名刺広告

医療法人社団 櫻会 十条腎クリニック 院長 街 稔 〒114-0034 北区上十条 2-13-1 ガーデニア4階 ☎03-3908-2411	医療法人社団 駿昭会 小池内科 院長 小池 昭夫 〒102-0071 千代田区富士見町 2-13-16 上田ビル ☎03-3265-0203	東京障害年金相談センター 代表 杉野 賢一 〒120-0034 足立区千住 1-4-1 東京芸術センター13階 ☎03-3888-6614	南青山内科クリニック 院長 鈴木 孝子 〒107-0062 港区南青山 7-8-8-101 ☎03-6805-1836	日伸駅前クリニック 院長 森山 君子 〒130-0022 墨田区江東橋3-10 1-8 日本生命錦糸町駅前ビル5F・6F ☎03-3634-9033
エルピス株式会社 社長 細井 孝 〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-27 新大阪丸ビル・新館302 ☎0120-393-578	株式会社 KRL 代表取締役 村田 晋一 〒181-0004 三鷹市新川 6-9-28 SSSビル ☎0422-40-1805	埼玉友草加病院 理事長 後藤 善和 〒340-0046 埼玉県草加市北谷 1-21-37 ☎048-944-6111	特定非営利活動法人東京腎臓病協議会賛助会員入会のお願い 1972年（昭和47年）11月19日、東京都腎臓病協議会（現、特定非営利活動法人東京腎臓病協議会）を結成しました。結成から37年を経過し、透析医療も格段に進歩し、40年を迎えている透析患者さんもうらやいます。 その一方で社会保障制度、医療	

制度の削減が社会問題となっており、莫大な費用を要する透析医療も安心してはられない状況です。これからの医療機関、各企業、患者団体と結束して活動することが大変重要と考えます。

私どもの「命と暮らし」を守る活動に賛同いただければ是非、賛助会員として団体の活動を支えていただきたく心よりお願い致します。

記

賛助会員会費…個人年額5,000円、団体年額 1口10,000円／1口以上

※年1回名刺広告を機関誌「東腎協」に掲載させていただきます（但し、継続でも初年度1回のみとさせていただきます）。

賛助会員の皆様のご支援でいろいろな企画や行動が出来ました

（一部を抜粋）

1977年（昭52年）「腎臓提供者登録カード」2千枚会員に配布

1982年（昭57年）全腎協国会請願参加

1983年（昭58年）10年誌「あゆみ」発行

1994年（平6年）「腎臓病を

考える都民の集い」開催

「障害年金の改正をすすめる会」国会座り込みに参加

1995年（平7年）「阪神大震災」応援東京大会出

1997年（平9年）緊急時透析患者カード作成、第25回記念東腎協総会開催、25周年記念会員交流会開催

1998年（平10年）都に対する「難病見直し」反対要請行動に参加

2000年（平12年）都庁座り込みと人間のくさり都庁包囲行動参加

2000年（平成12年）都庁を囲む「人間のくさり」に参加

2002年（平成14年）東腎協結成30周年記念総会開催

地域腎友会交流会開催

東腎協結成30周年記念祝賀会開催

2005年（平17年）豊島法務局にて東腎協NPO法人登記完了

2009年（平21年）世界腎臓デーイベント、腎臓チェックキット配布キャンペーン参加

2012年（平24年）東腎協結成40周年記念事業

今後の活動予定

6月6日(木)	障害者福祉会館B1・2	12月22日(日)
全腎協創立記念日(全腎協事務局 休日)	8月10・11日(土・日)	第93回理事会(場所未定)
6月8・9日(土・日)	全腎協関東ブロック青年交流会 in 東京(アルカディア市ヶ谷)	12月27日(金)
全腎協第105回理事会(神戸)	8月24・25日(土・日)	仕事納め
6月16日(日)	全腎協青年研修会(場所未定)	12月28日・1/5まで 年末、年始休暇
第87回理事会(文京区シビックセ ンター区民会議室3階会議室)	8月25日(日)	2014年
6月21・23日(金・土・日)	第89回理事会(東京都障害者福祉 会館 C3)	1月6日(日)
日本透析医学会(福岡)	9月7・8日(土・日)	仕事始め
6月23日(日)	全腎協第106回理事会(神戸)	1月11・12日(土・日)
第8回総会(戸山サンライズ大研 修室)	9月22日(日)	全腎協第108回理事会(神戸)
7月6・7日(土・日)	第90回理事会(東京都障害者福祉 会館 C3)	1月26日(日)
全国事務局長会議(場所未定)	10月6日(日)	第94回理事会(場所未定)
7月14日(日)	第33回臓器移植普及推進キャンペ ーン(上野恩賜公園)	2月15・16日(土・日)
東部・中部ブロック合同交流会	10月19・20日(土・日)	全腎協第109回理事会(東京)
多摩ブロック第2グループ正会員 会議	全腎協第52回総会(場所未定)	2月23日(日)
多摩ブロック第3グループ正会員 会議	10月27日(日)	第95回理事会(場所未定)
7月20・21日(土・日)	第91回理事会(場所未定)	3月9日(日)
全腎協関東ブロック会議 in 群馬	11月9・10日(土・日)	第25回腎臓病を考える都民の集い (場所未定)
7月28日(日)	全腎協通院介護研修会(場所未 定)	3月13日(木)
第88回理事会(東京都障害者福祉 会館 C3)	11月16・17日(土・日)	世界腎臓デー
8月4日(日)	全腎協第107回理事会(東京)	3月15・16日(土・日)
第15回地域腎友会交流会(東京都	11月24日(日)	全腎協第53回総会(場所未定)
	第92回理事会(場所未定)	3月20日(木)
	12月7・8日(土・日)	第43回国会請願(議員会館 場所 未定)
	全腎協関東ブロック会議 in 埼玉	3月23日(日)
		第96回理事会(場所未定)

表紙の言葉

ホウノキの花

加藤 茂

5月中旬の頃、ホウノキの花が咲きます。大きな花です。何枚かの大きな葉っぱの真ん中に女王様のように白い花を咲かせます。木は大きくなるので、花も高い所に咲いていて、よく見ることができません。

が、昨年の春、新宿御苑に行くのと、1mくらいの高さの所に咲いているのを発見しました。それを見て、思わずわぁーと思ってしまいました。新宿御苑にはよく行くのですが、この時、これほどの近くでは初めて見たのです。この木は大きくて巨木の部類に入ります。花は独特の香りがしました。ホウノキは、葉っぱも大きいので頼もしい木です。

ホウノキの花が散り、6月になると泰山木の花が咲き出します。ホウノキの花と泰山木の花は非常によく似ています。ホウノキ、泰山木もモクレン科ですが、ホウノキは落葉高木、泰山木は常緑高木で、葉の表面は光沢を帯びています。

事務局から

ご寄付お礼

扶桑薬品工業(株)

○東京第一支店様(2月～5月)

○エルピス株式会社様

ご寄付ありがとうございました。

青い鳥葉書(切手) ご寄付一覧

【患者会】

豊田クリニックグループ

森山友の会

東京綾瀬腎クリニック腎友会

【個人】

岸本 敦さん

秋田 孜さん

三好 亘子さん

横川 三喜雄さん

鈴木 悦代さん

(5月10日現在まで分、順不同)

葉書・切手等は沢山使用しますのでいつでもご寄付受け付けておりますので、今後共よろしく願います。
～ありがとうございました～

第42次国会請願署名 ありがとうございました

皆様から寄せられた国会請願署名は、3月21日(木)が国会請願行動日になっておりましたので、皆様の署名を国会議員にお届けしてきました。

NPO法人東京腎臓病協 議会 第8回総会・第3 回大会のご案内

第4回総会で決定した通り、定款に遵守し、正会員のみで行います。大会に関しては会員どなたでもご参加いただけます。第8回総会・第3回大会を左記のとおり戸山サンライズ大研修室において開催します。

日時・2013年6月23日(日)

総会受付開始 9時30分

時間 10時～11時50分(総会)

大会受付開始 11時50分

時間 12時15分～12時55分まで昼食

食

13時05分～16時(大会)

会場 戸山サンライズ大研修室

住所 新宿区戸山1-22-1

TEL 03・3204・3611

交通

●「東西線」早稲田駅下車 徒歩約10分

●「大江戸線」若松河田駅 徒歩約10分

※詳しくは機関誌「東腎協」No.196 議案集・No.197 5月号表紙裏の第8回総会・第3回大会のご案内をご覧ください。

30年透析会員のお名前掲載漏れについてのお詫び

機関誌「東腎協」No.195(1月号)30年透析会員のお名前の頁で次の方が漏れていました。

【30年透析会員のお名前】

白神 慶生(個人会員)

S57(1982年)2月16日

謹んでお詫び申し上げます。

40周年記念誌35年～39年 透析会員のお名前掲載漏れについてのお詫び

次の方が漏れていました。

【35～39年透析会員のお名前】

生井 克子 S50年4月導入(38年)

他3名、いずれも女性(35年)

(36年)(39年)

以上、阿佐ヶ谷すすき腎友会。

中村 直子 S49年4月導入(39年)

個人会員
謹んでお詫び申し上げます。

40周年記念誌訂正の お詫び

記念誌のP.29地域腎友会の中の「1.江東腎臓病を考える会(平成2年結成)」が(平成元年結成)の誤りでしたので謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

観測史上2番目の早咲き桜もあれば、世界規模の連続地震。原発問題にミサイル発射…。何か地球がおかしい。命の尊さを訴える人々、人を傷つけ、殺し合い、憎しみ合う人々…。何か人間もおかしいか?と、思うのは私だけだろうか。

(板橋)

NPO法人になって8回目の総会の準備に取り掛かっております。新年度の役員体制や引継ぎ等に追われる毎日で1日1日が早いと感じております。

(岸里)

選ばれているのには理由があります。
頼れるコエンザイムQ10・
L-カルニチンサプリ...

新

Q10ペプセル

栄養機能食品(ビタミンE)

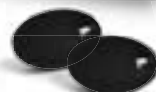
キューテン



カラダに
とっても大切です。

「透折パンサイ」で有名な
山猫先生も
毎日飲んでます！

こんなことで
お困りでは
ありませんか？



倦怠感、血圧低下、息切れ、筋肉のツリなど...

イーホープペプセルがお届けする

基本サプリメントで、確かな栄養補給を!!

目安として、1日に1~6粒程度の
範囲でお召し上がりください。

たくさんの方々にお試しいただくために、お試し価格でご提供をいたします。

お試し
販売価格

60粒入り1箱当り

2,800

★一家族
初回1回1箱限り

- 定価5,250円/1箱当り
- 会員特価4,700円/1箱当り
- まとめて2箱なら4,500円/1箱当り
- さらに3箱まとめれば4,300円/1箱当り
- 5箱以上お買い上げは4,200円/1箱当り

- ★ペプセルシリーズは定価の5%引きで毎月発送致します。
- ★全て税、送料込み(離島を除きます)

商品の
お求めは

お電話で 受付時間 平日9:00~18:00

フリーダイヤル

0120-266-910

不老(フロー)

Q10(キューテン)

FAXで

078-231-0330

ネットで

<http://www.clubshop.jp/>

イーホープペプセル 〒651-0084 神戸市中央区磯辺通2丁目2番25号 ダイワピュアビル803

平成24年4月より、ネット拠点を神戸に移転いたしました。

第24回腎臓病を考える都民の集い

日時...3月17日(日)

場所...都庁第一本庁舎5階大会議
場

参加者...148名(男性73、女性
75)ほか30名

主催者を代表してNPO法人東
腎協木下久吉会長が挨拶し、共催
者として東京都福祉保険局保健政
策部疾病対策課阿部敦子課長が挨
拶しました。

第一部の講演では「CKD(慢
性腎臓病)のステージと食事療法
について」の講演を東京慈恵会医

科歯科大学付属病院栄養管理士の

湯浅愛先生、第二部の講演では「知
って下さい慢性腎臓病」の講演を東

京慈恵会医科大学付属病院腎臓高
血圧内科講師の横尾孝先生にご講

演頂きました。

第二部では、コーディネーター
村松満美子さん(NPO法人腎臓
サポート協会理事長)、パネラー

横尾隆先生、湯浅愛先生による
質疑応答で16時半に終了しました。



横尾先生(東京慈恵会
医科大学附属病院)



湯浅先生(東京慈恵会
医科大学附属病院)



主催者挨拶をする木下会長



司会の松村さん(腎臓
サポート協会理事長)

180名の参加で盛会

第24回腎臓病を考える都民の集い
2013年3月17日 都庁



講演に熱心に聞き入る参加者の皆さん



道案内をする実行委員の皆さん



会場風景と参加者
(左上)
(左中)
(左下)



美味しさと笑顔は明日への活力!

皆様の健康生活をサポートします。

エルピス

栄養ドリンク

栄養機能食品
亜鉛

内容量:50ml/瓶 1日の目安量:1本

発売元:エルピス株式会社 製造元:中外医薬生産株式会社

販売
価格

1箱50本入り 10,500円(送料+税込)

1箱10本入り 2,490円(送料+税込)



健康を守るアミノ酸
アルギニン
BCAA
カルニチン

安心・安全を追求
合成保存料
無添加

栄養ドリンクエルピスとコエンザイム粒は、皆様の栄養補給を目的に開発された製品です。皆様に不足しがちな栄養成分や健康維持に必要な栄養成分をバランスよく配合しています。皆様の健康で快適な透析生活を維持するためにご利用ください。

配合栄養成分(1本50mlあたり)

L-カルニチン	270mg	ビタミンB群	33.4mg
BCAA	180mg	(B1・B2・B6・B12・葉酸・ナイアシン・パントテン酸)	
L-アルギニン	160mg	ビタミンC	30mg
アスパラギン酸	60mg	鉄	5.3mg
リジン	50mg	亜鉛	3.1mg
α Gリチン	50mg		

配合成分
1粒あたり配合量

コエンザイムQ10
30mg

アスタキサンチン
1.0mg

ルチン
30mg

リコピン
1.2mg

ビタミンE
13mg

コエンザイム粒

栄養補助食品

販売価格 1箱 3,850円(送料+税込)

内容量:60粒/1箱 1日の目安量:1~2粒
ソフトカプセル(1粒400mg)

発売元:エルピス株式会社 製造元:日水製薬株式会社



皆様からの
お便り

イキイキ元気伝言板

栃木県 女性 72歳 導入10年

病院から帰って、真っ先にエルピスを飲みます。その後、30分も休めば食事の仕度など家事ができます。以前は、疲れがひどく、家に帰って4~5時間は横になった後でないと何も出来ないことが多く、主人に心配ばかり掛けていました。今は、お蔭様で歳相応ですが元気です。主人と一緒に菜園や花壇の手入れをしたり、近所の友達とオシャベリを楽しんでいます。

三重県 男性 78歳 導入26年

年数が長くなると、いろいろと気になることが出てきて少しずつ悪くなっていくばかりで、良くなることは何もない。それに歳も関係しているから仕方がないかと達観しているつもりだが、それでも身体に良いとおもうことは、できるだけ心掛けたいとも思っている。そんなことでエルピスとコエンザイム粒を続けて利用している。飲んでいるから体調がこの程度で維持できていると信じている。

熊本県 男性 76歳 導入2年

主人は、栄養不良気味なのに食べる意欲がないのか、なにを作っても食べてくれず日々悩んでいました。それで栄養補給のためにエルピスをとりました。それから4ヶ月ほど経ちますが、顔がすこしフックラして目に力ができました。前よりは美味しそうに食事をするようになり、体重もやっと少し増えました。行くのを嫌がっていた病院からの帰り道に、笑顔を見せるようにもなりました。(奥様談)

大阪府 女性 63歳 導入16年

エルピスとコエンザイム粒は、健康維持のお守りとして一日も欠かさず愛用しています。栄養状態をより良く保つうえで必要だとおもっています。お蔭で、私の検査数値は安定しており、医師から何も問題はないと太鼓判をおされています。病院の看護師たちも、私がエルピスを飲んでいるのを見て、「透析医学会で毎回展示しているね。私たちも飲んだわよ。美味しいよね。」と言っていました。

ご購入・
お問い合わせ

0120
FreeDial

0120-393-578

【受付時間】
平日:9:00~18:00
土・日・祝祭日休業

エルピス株式会社

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1丁目18-27